

中国におけるハクガンの再発見

朱書玉・呂卷章・王立冬

山東黄河三角洲国家級自然保護区管理局 東営市

訳 福井和二

摘要；ハクガンは文献によると中国においてしばしば観察された冬鳥であるが、数十年来まったく記録されていない。今回黄河三角洲自然保護区において再発見され、66日間の越冬を観察し、中国にハクガンが分布していることを実証した。関係文献を調査し、ひとまず確認した越冬鳥の記録を報告する。

ハクガン(*Anser caerulescens*)はかつて中国において多くの記録があった。しかし、最近の数十年来、足跡すら見ることが出来なかった。今回のハクガンの再発見はハクガンが中国に分布していることを実証したことになる。文献によると、この鳥はアジアの各所において冬鳥あるいは迷鳥として記載されている。ハクガンは黄河三角洲自然保護区において約66日間越冬した。我々はその行動の状況、行動範囲等を研究した。

1. 再発見した場所と概況

山東黄河三角洲国家級自然保護区(以下自然保護区と略)は山東省東営市の黄河河口で、北に渤海湾、東は菜州湾に接し、東北内陸と江淮平原の間、東経118°36′~119°20′、北緯37°35′~38°12′に位置する。

自然保護区の総面積153,000hm²、現在の黄河河口部全域が自然保護区域内となっている。この自然保護区は中国の温暖帯で最も新しく、保存が完備し、面積も大きい。河口に出来た新生湿地で、希少鳥類を主体とした生態系保護を目的としている。

自然保護区は温暖、季節風気候帯に属し、気候条件がよく、大面積の干潟、浅海が続き、豊富な水生生物が成育し、多くの鳥類に安全で、優良な生息環境として、越冬あるいは渡りの中継地を提供し、東北アジア内陸と環太平洋鳥類の重要な渡りの中継地となっている。自然保護区の年平均気温は11.9℃、太陽の年総輻射量は5264.0MJ/m²、年平均日照総時間は2781.7時間、年平均降水量592.2mm、全年平均風速は3.7m/s。11月平均気温5.8℃、12月平均気温-1.3℃である。

主な野生植物はヨシ(*Phragmites australis*)、ギョリュウ(*Tamarix chinensis*)、ハマツナ(*Suaeda heteroptera*)、チガヤ(*Imperata cylindrica*)など、主な農作物は小麦、大豆などである。

2. ハクガンの野外形態

ハクガンは体長約70cmで、ヒシクイ(*Anser fabalis*)と同様かやや小さい。嘴と脚の淡紅色と初列風切の黒色を除き全身が白色である。初列風切が比較的長く、尾羽根の上に突出している。立っているときは初列風切の黒色が尾羽根の上を覆う。飛んでいるときは嘴と脚の淡紅色、翼先の黒色がはっきりと目立ち、その他はすべて白色である。嘴は短く厚く、赤紅色、先端が黒色である。

3. 再発見過程

3.1 初回の発見；1997年11月17日午前10:25、自然保護区の大流管理ステーションの八片麦地で5,000余のヒシクイの群中に2羽のハクガンを発見した。東経118°59′、北緯37°46′の地点。2羽のハクガンはヒシクイ中で際立って目立った。2羽のハクガンは約1mの間隔でヒシクイの混群の中で静かに冬小麦の若芽を採食しており、時折頭をあげて周囲を警戒していた。

観察者との距離が約600mになったとき驚いて鳴き声を発し、羽ばたきをしたが、飛び立つことはなかった。しばらくして慣れると再び採食を始めた。

3.2 観察結果；自然保護区における冬季の鳥類調査66日間に、ハクガンはただ大汶流管理ステーションでのみ観察され、他の地域で見ることはなかった。2ヶ月余の観察期間中ハクガンはこの地点で固定的に観察され、その日中行動も一定であった。毎日午前中麦畑の中で採食あるいは休息し、正午頃黄河河流で水分の補給を行い、2時間ほど滞在する。午後2：00ころ麦畑にもどり採食するが午前中ほど頻繁ではない。午後5：00頃河口の干潟へ飛んでいき、ねぐらをとる。その行動はヒシクイも同様であった。採食地と河流の間は約2km、ねぐらとの距離は約10kmで、行動範囲は約20km²であった。時々人為的な干渉があってもハクガンはヒシクイと共に近くの麦畑に移動し採食を続けた。

ハクガンの行動区域内の他の越冬鳥類はヒシクイ、オナガガモ(*Anas acuta*)、カルガモ(*A. poecilorhynsha*)、タンチョウ(*Grus japonensis*)、クロツル(*G. grus*)、マガン(*Anser albifrons*)、サカツラガン(*A. cygnoides*)、コヒバリ(*Calandrella fufescens*)、ヒバリ(*A. arvensis*)、ハクセキレイ(*Circus cyaneus*)、ハイロチュウヒ(*Circus cyaneus*)などである。しかし、そのうちハクガンの生息域内で、生態的習性が似ていて、密接に関係のある鳥類は、主にヒシクイ、マガン等のガン類とクロツル、タンチョウなどのツル類である。上述の鳥類はいずれも麦畑や豆類の畑で好んで採食し、河流で水分の補給をし、河口の干潟をねぐらとしてる。

4. 過去の研究状況

趙正階著《中国鳥類手冊》の記載に、ハクガンは北アメリカ北極地区とシベリア北東の隅で繁殖し、越冬は北アメリカ、シベリア東部沿海地方、日本と我が国とある。過去の報告によるとハクガンの出現は、我が国河北省高碑店、保定、天津と長江河口(La Touche, 1931~1934)である。河北省ではいくつかの発見が報告されている(寿振黄, 1936)。しかし、最近数十年來の観察報告例は極めて少ない。我が国においては希少越冬鳥であるが、外国におけるハクガンの数は非常に多い^[1]。

鄭作新^[2]の報告によると、我が国におけるハクガンの分布はわずかに黄河北部地域、長江河口となっているが確定は不十分である。

アジア湿地局(The Asian Wetland Bureau)^[3]のアジアにおける水鳥数量統計(1987~1991)；《アジアの水鳥分布と現状》によると、ハクガンはアジアでは珍しい冬鳥あるいは迷鳥で、ただ少数(約50羽)が中国で越冬している可能性があり、あるいはアジアの他の地区で迷鳥として出現しているとされ、以前に中国の鄱陽湖とインドでわずかな記録があると記されている。

上述の文献を分析し、我々は以下の結論を得た。

ハクガンは常時中国に渡来しており、主な分布は中国沿海部一帯であるが、数が極めて少なく、広範囲に分散しているので観察される確率は決して高くないが、ハクガンは当然中国での冬鳥と確認すべきである。

5. 分析と討論

今回の黄河三角洲自然保護区におけるハクガンの再発見は中国の最近数十年來のこの種の鳥の再認識であり、中国およびアジアにおける水鳥の分布地の大きな補充となり、また、再発見されたハクガンの分布は、ハクガンの中国における新しい分布域を追加した。過去2ヶ月の観察で自然保護区内のハクガンの生息環境が良好で、食物も充分であり、人の干渉も少なく、ハクガンにとって安全な越冬地であることがわかる。当然たまたま見ることが出来た冬鳥であり、今後も再び現れるであろうか。さらに観察をする必要がある。並びに自然保護区の生息環境の管理を強化し、できる限り鳥類の越冬に適した環境条件が提供出来るようにしたい。自然保護区はこの新し

い種の出現を非常に重視し、生息地への立ち入りを禁止する管理を強化したい。

訳注

* 江淮平原；長江と淮河の流域を指す中国中央部の平野。

参考文献

- [1] 趙正階. 中国鳥類手冊(上巻 非雀形目). 長春：吉林科学技術出版社. 1995
- [2] 鄭作新. 中国鳥類区系綱要. 北京：科学出版社. 1987
- [3] Christian Perennou, Taej Mundkur and Derek A. Scott. the Asian Waterfowl. Census 1987~1991: Distribution and Status of Asian Waterfowl. IWRB, Slimbridge. 1994